

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成を目指し、キリスト教主義に基づく全人教育を通して、他者、特に幼い者を愛し仕える高い使命感を持った保育者を養成する。 ・幼稚園教諭・保育士となる際に必要な基礎的・基盤的な学習ができるよう、教育課程、教授内容を検証し、改善を図る。 ・保育の現場に立つ使命感を構築できるよう、実習や授業など有意義な機会を提供するとともに、保育者としての資質・能力を向上させるために、実習先との協力体制の充実を図る。 ・新しい教育課程の基本となる幼児期に育みたい資質・能力の内容について、学生が体得できるように教授する。また、最新の子どもに関する調査結果などを積極的に取り入れ、時代にあった幼稚園教諭、保育士、保育教諭の養成に努める。 ・学習成果の検証の実施と見直しを図る。 ・ICTの活用の充実を図るとともに、ICTを活用できる人材の育成を強化する。 ・経済的に困窮する学生や地方から来た学生が安心して学業に専念できるように、奨学金制度の見直しを図る。 ・多様な学生(配慮を必要とする学生、経済的に困窮する学生など)に対するきめ細かな支援を行う。 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神、スクールモットーがより深く理解され、他者、特に社会的弱者に奉仕しようとする高い使命感を持った学生の育成が行われている。 ・教育課程の学習を通して保育の知識ならびに技能と子ども理解が身につく、保育の現場に就職する人数を維持している。 ・保育者になるという意欲や、そのために豊かな人間性を培おうとする態度、意識を持った学生の育成と、それを達成するための支援が行われている。 ・本学卒業生の保育分野における貢献度と社会的評価がさらに向上している。 ・学習成果の測定と評価が着実に進められ、教育の質の保証に向けた取り組みがなされている。 ・保育でICTを適切に用いることのできる学生の育成が行われている。 ・保育を学んだことを基盤として、この学びを継続し深めたり、新たな分野において学びを深めたりする人数が増加している。(編入・進学等) ・奨学金を必要とする学生に、適切に資金が供給されている。 ・学生生活全般に対して気軽にアドバイスが受けられる仕組みが整備されている。 ・卒業生によるガイダンスの機会や、キャリア相談の環境整備により、1年次からのキャリア支援体制が充実している。
<p>2. 志願者獲得の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜試験等、「学力の3要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を多面的・総合的に評価するものへと改善する。 ・聖和短期大学の魅力を伝えるための広報の戦略を常に検討する。 ・中高生向けの広報を充実させる。 ・オープンキャンパスの時期や内容を検討する。 ・多様な進路を選択できるように、編入制度の充実と周知を図る。(大学・高等部との接続) ・高校との連携を充実させる(高校への出張授業等)。 ・幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園、児童福祉施設等に加え、保育団体や地方自治体との連携を深め、保育を学びたい受験生の開拓に努める。 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学を目指す受験生や保育を学びたい受験生が確保され、受験者数が減少していない。 ・高校生が多面的評価をしてもらえると感じ、志願(選択)しやすい入試形態を用意している。 ・本学の知名度が上がっている。 ・SNSやHPが中高生に見やすいものとなり、アクセス数が増加している。 ・オープンキャンパスの参加者が増加し、着実に本学受験へとつながっている。 ・高校での模擬授業や進路ガイダンス等で高校生と本学教職員が出会う機会が確保され、本学での学びを希望する受験生が増加している。 ・志願者がコンスタントにある重点校(協力校)や家庭科・保育等の担当教諭との連携が深まっている。 ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園、児童福祉

	施設ならびに地方自治体と協定を締結し、保育者養成に関しての連携がさらに深まっている。
3. 研究、保育現場などとの連携 ・知的好奇心、広い視野を持ち、専門分野に加え、周辺分野に関する研究を深化させる。 ・保護者、卒業生、保育現場などへの情報発信を充実させ、本学との繋がりを強化する。 ・幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質・能力の向上を目指した研修等を充実させる。 ・保育団体などとの連携を深め、ブランド力をさらに高める。	<2024年度のありたい状態> ・教員の研究成果の発表が目される。 ・研究助成金などの外部資金と寄付金の獲得が増加している。 ・現職教育の実施機関として広く認知され、受講数が安定している。 ・保育に関する連携協定などの締結先が増加し、保育分野におけるブランド力が高まっている。
4. 法令などへの対応、認証評価による改善課題への対応 ・法令などの改訂に対して、情報収集に努める。 ・2021年度に受審した期間別認証評価による改善事項に取り組む。 ・内部質保証の取り組み。 ・改革総合支援事業などに示された内容への取り組みを進める。	<2024年度のありたい状態> ・法令などを準拠し、その内容に即した教育活動を行なっている。 ・2021年度認証評価「自己点検・評価報告書」に記載した課題の改善計画を遂行している。 ・2021年度認証評価の結果を受けて、向上・充実のための課題として指摘された事項について対応し、さらに教育の質が向上している。 ・改革支援事業への対応が進んでいる。
5. 短期大学の長期的ビジョンの検討 今後の短期大学の在り方について、W.G.を組織して検討する。	<2024年度のありたい状態> ・保育者を育てる養成機関の特色を生かした本学の具体的な将来像が決まっている。
6. 中期的な課題 <フェーズ2(2022~2024)> 1. 志願者の獲得 2. 学生募集における広報活動の強化 3. 教育の質保証 4. 学生支援体制の充実 5. 保育団体・実習施設との協力体制の構築 6. 大学の社会的活動の充実	

▼継続 or 完了 or 廃止 を選択してください。	【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として 取り組むものに ○
継続	① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
継続	② 広報戦略の充実・入学者数の確保	
継続	③ 授業内容の充実	
継続	④ 学生支援体制の推進	
継続	⑤ 質の高い保育者の輩出	
継続	⑥ 再教育システムの充実	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- | | | |
|----------------------|---------------------|---------------------|
| ②-1 広報施策の拡大 | ②-2 出願高校の増加 | ②-3 オープンキャンパス来場者の増加 |
| ②-4 志願者数の増加 | ②-5 入学定員の確保 | ③-1 授業の到達目標の達成度 |
| ③-2 DP に定める資質能力の獲得状況 | ③-3 免許資格取得率 | ③-4 学習成果の獲得状況 |
| ③-5 学習成果の実践度 | ③-6 教員の研究成果の発表・発信状況 | |
| ④-1 学生満足度 | ⑤-1 就職率 | ⑤-2 就職先からの評価 |
| ⑥-1 短大が行う研修への参加状況 | ⑥-2 研修参加者の満足度 | |

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2022年3月時点)

【フェーズⅠ(2019-2021)での課題】

<1. フェーズⅠの中期計画の取り組みにより明らかになった課題>

フェーズⅠの3年間を通して達成できなかった指標は、②-2 出願高校の増加、②-4 志願者数の増加、⑤-1 就職率であった。

②-2 出願高校の増加、②-4 志願者数の増加、については、従来の短期大学で学ぶ受験生の減少傾向に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の中で2年間で学ぶことができるのかといった不安、大変な保育職へのイメージ、そして新規保育者養成校の参入などの影響を受け達成できなかった。⑤-1 就職率に関しては、進学を目指して入学してくる学生の増加やこの時期に保育施設で働くことへの不安を抱える学生も増えてきたことが影響している。

2020年2021年に達成できなかった指標は、③-6 教員の研究成果の発表・発信、④-1 学生満足度であった。③-6 は、学生の実習の中止や新たな交渉をすることに教員が研究する余裕がなかったこと、④-1 2年生は、キャンパスで学ぶ日数が2年間で延べ100日程度しかなく、保育を学ぶための特別教室の使用もほとんどなかったことが影響していると考えられる。

<2. 認証評価の取り組みにより明らかになった課題>

一般財団法人大学・短期大学機関別認証評価(案)において、建学の精神と教育の効果、教育課程と学生支援、教育資源と財政的資源に関しては基準を満たしていると判定を受けた。特に、優れた試みとして、①保育者を目指すものとして知っておいた方がよい150種類以上の様々な樹木が植栽している「聖和の森」、②キリスト教教育・保育の貴重な文献歴史資料を保有し、広く学びの場になっていること、③よりよい学びの空間になっている「おもちゃとえほんのへや」であった。

面接調査の際に、ホームページ上に見直す前のディプロマ・ポリシーが掲載されていること、シラバスの内容が一般の人が見ることができる内容と、学生や教職員が見る内容とが異なっていること、文部科学大臣が別に定める学習の単位認定(TOEIC等)について、どの単位認定されるのかわかりにくいことなどの指摘を受けた。これらの改善に努めなければならない。

また、本学の優れた試みに関しては物的資源が中心に示され、それ以外の部分については、大きく評価されなかったことは残念であった。このことから、本学の教育の特長などを伝える情報発信力が弱いことが明らかであり、今後いかに工夫して特性などを発信していくかが大きな課題である。

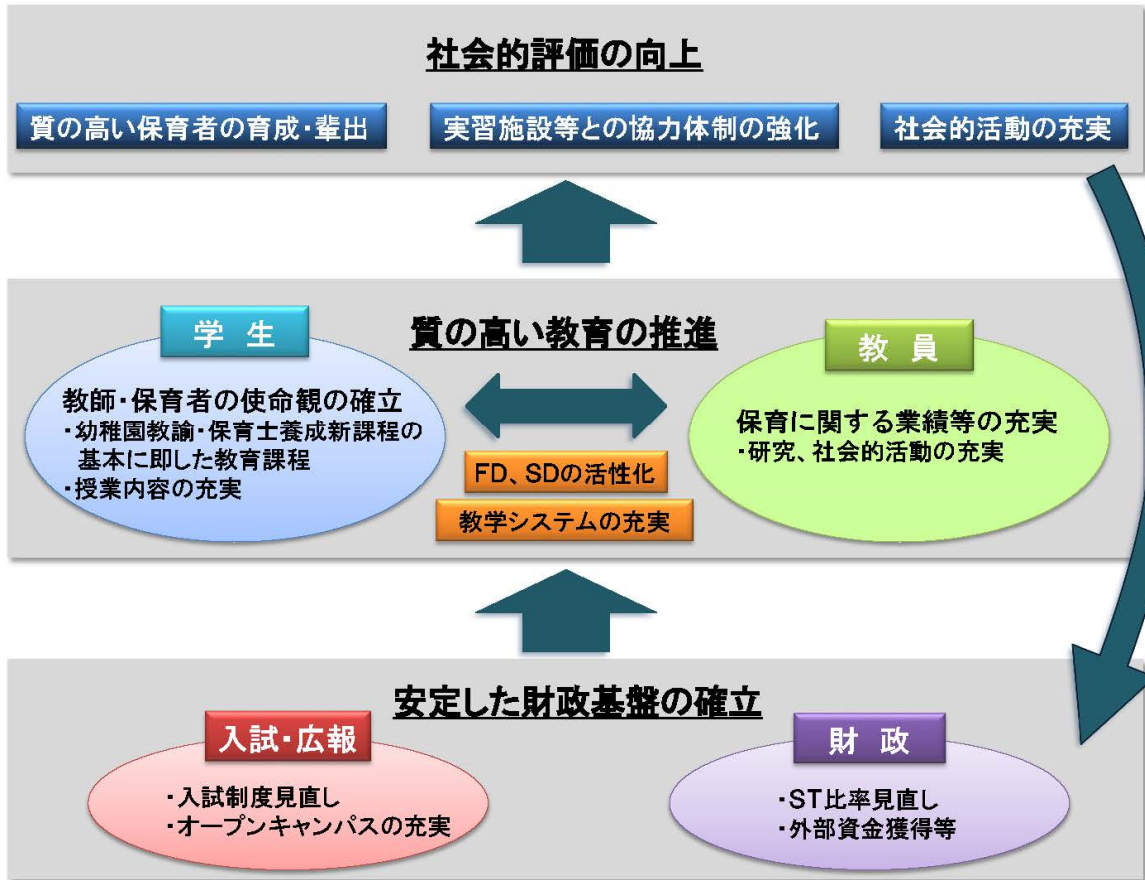
<3. 上記1, 2を踏まえたフェーズⅡ(2022-2024)に向けた展望>

新型コロナウイルス感染症拡大は、本学の教育目標である保育者の養成をますます厳しい状態にしている。本学の特性である実習を重視した教育のために実習先と協力関係をもっているが、感染症の拡大に伴い実習の受け入れ辞退が相次ぎ、学生の実習の確保に苦慮している状況である。また、オミクロン株は幼稚園、保育所、施設の休園や閉鎖もあって、今後も予断できない状況である。

学生募集に関しては、新しい広報戦略を取り入れることによりこれまでと違った高校からの受験生獲得に繋がったが、この状況下で安全に免許・資格が取得できるのかといった不安要素もあり保育分野の受験生が減少している。

今後は、保育者を必要とする幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園、児童福祉施設ならびに地方自治体と協力した施策を実施するなど、受験生の確保に努めたい。また、保育を学びたい学生層を増加させるために、保育職の魅力などを発信するとともに、入試広報活動の強化を行いたい。

2020年8月時点



以上